

プリペアード・ピアノ 井上郷子のからくり

2024年5月17日 (金)

19:00 (18:30開場)

司会：中井悠

東京大学教養学部コミュニケーション・プラザ北館
音楽実習室 | 入場無料 (先着88名) | 要申し込み

近藤譲 (1947-) : 《間奏曲》 (2017)

ジョン・ケージ (1912-1992) : 《ソナタヒインターリュード》 (1946-1948)

リンダ・カトリン・スミス (1957-) : 《ここからの眺め》 (1992)

1930年代後半にジョン・ケージが発明した (とされる) プリペアード・ピアノは、通常のピアノの弦にボルトなど様々な物体を挟むことで、各鍵盤に対応する音の響きを変えた楽器です。一台の鍵盤楽器を打楽器アンサンブルに作り替える妙案として始まった試みは、ピアノという西洋音楽の中心に位置する楽器を相手どった20世紀後半の様々な解体実験の先駆けとなり、サンプリングなどにおけるキーボードというインターフェースの捉え直しにも大きな影を投げかけました。東京大学ピアノ委員会では、特殊奏法の第一人者であるピアニストの井上郷子さんをお呼びし、プリペアード・ピアノとピアノの両方を含むプログラムを通じて、プリパレーションという手法を考え直すコンサートを開催します。

ケージの大作《プリペアード・ピアノのためのソナタヒインターリュード》の全曲演奏という貴重な機会の傍らに、プリペアード・ピアノの登場以降に書かれた現代ピアノ曲を添えることで、それらの「アンプリペアード性」を浮かび上がらせます。

ピアノの鍵盤と同数の観客を先着順に受け付けます。—————>
また希望者 (先着10名) はプリパレーションの過程を見学できます。

